

子どもの保健



演習



編集／執筆



大西文子

日本赤十字豊田看護大学



執筆



輿水めぐみ・神道那実

鈴木弘美・増尾美帆・山田裕子



中山書店

序

子どもに関する社会問題、すなわち、子育て不安・困難、児童虐待、家庭内・学校内のいじめ等は少子現象に起因しているように思われる。現在の少子時代では、子どもも大人も、子どもとの接触体験が少なくなっている。また、現在子育てをしている人やこれから子育てをしていく人に加え、子育てを支援する専門家やその養成段階の学生ですら、子どもとの接触体験は少なくなっている。

子どもとは、どのように成長発達していくのか、どのような遊びをするのか、どのようなもの見方・考え方をするのか、などを捉えることは子どもとの接触体験が少ない現状では難しい。

このような現状を受けて保育士養成課程が見直されることとなり、「小児保健」「小児保健実習」が新しく講義科目の「子どもの保健Ⅰ」および演習科目としての「子どもの保健Ⅱ」へ変更され、2011（平成23）年度より施行された。

保育士としての活躍の場は、従来、働く保護者の留守家庭における健康な子どもの保育であった。しかし、社会状況が様変わりした現在においては、健康な子どものみならず、発達障害など障害をもつ子どもの統合保育までと保育士の活躍の範囲と期待は大きく広がってきている。

そこで、本書はその役割拡充のための保育士・幼稚園養成課程の学生を対象としているほか、関係職員の方にも活用していただけるように、内容を洗練し、まとめた。

またこの本書を通して、これから母親になろうとしている家族の方々にもお役に立てれば幸いである。

今回「子どもの保健」を作成するにあたり、中山書店の編集部の皆さんをはじめ、快く分担執筆にご協力いただき、かつ、編集協力をしていただいた諸先生方に深く感謝申し上げます。

2012年11月

日本赤十字豊田看護大学小児看護学教授
大西 文子

第1章 小児保健

1. 小児保健とは何か …………… (大西文子) 2
2. 小児保健を学ぶ意義・目的 …………… (大西文子) 3
3. 保健活動の計画および評価 …………… (大西文子) 4
保育指針における「保健活動」／保健活動の目標となる保健計画／保健計画の作成
／指導計画

第2章 小児の発育を知る

1. 成長発達の一般的原則 …………… (神道那実) 10
方向性・順序性がある／急速に発達する時期と緩慢な時期がある／個人差がある
2. 形態的発達 …………… (神道那実) 12
体重／身長／胸部／頭部／生歯／骨／身体のバランス
3. 運動機能の発達 …………… (神道那実) 16
粗大運動の発達／微細運動の発達
4. 精神機能の発達 …………… (神道那実) 21
認知／情緒／社会性
5. 生理的機能の発達 …………… (神道那実) 24
体温／呼吸／循環(脈拍・心拍)／血圧／体内の水分量と排泄量／免疫／感覚
6. 発育評価 …………… (神道那実) 32
身体発育の評価／運動機能および精神機能発達の評価／知能指数・発達指数

第3章 小児の健康と子育てに必要な養護・しつけ

1. 居住・施設環境 …………… (大西文子) 48
環境衛生と環境安全の実施体制とその概要／設備の衛生管理の実際

2. 子どもの特性と基本的な生活習慣・しつけ …………… (大西文子) 51
子どもの特性／子どもの基本的な生活習慣の自立としつけの必要性
3. 基本的な生活習慣の確立 …………… (山田裕子) 53
食事／排泄／着衣・脱衣／清潔／睡眠
4. 日常に必要な養護 …………… (鈴木弘美, 山田裕子, 大西文子) 62
抱っこ・おんぶ／食事介助／口腔の清潔／衣服の着脱／排泄とトレーニング／沐浴・入浴方法／就寝とその儀式／外出時の注意事項／遊び

第4章 小児の事故とその予防

1. 小児の事故の特徴 …………… (山田裕子) 84
不慮の事故死の原因／小児が事故を起こしやすい特性
2. 事故やけがの理解と応急処置 …………… (輿水めぐみ, 大西文子) 88
保育所・幼稚園で発生する事故やけが／応急処置

第5章 小児に多い病状・病気とその対処および予防

1. 小児が病気にかかりやすい理由 …………… (増尾美帆) 108
2. 感染予防 …………… (増尾美帆) 109
感染経路／感染経路別予防対策／感染予防教育
3. 小児に多い感染症とその対処 …………… (増尾美帆) 113
はしか(麻疹)／インフルエンザ／風疹／水ぼうそう(水痘)／おたふくかぜ(流行性耳下腺炎・ムンプス)／咽頭結膜熱(プール熱)／マイコプラズマ肺炎／手足口病／りんご病(伝染性紅斑)／ウイルス性胃腸炎／RSウイルス感染症
4. 集団生活における感染症発生時の対処 …………… (神道那実) 123
日常の感染対策／感染症の疑いのある子どもへの対処／感染症発生時の対処
5. その他の急性・慢性疾患とその対処 …… (増尾美帆, 鈴木弘美, 大西文子, 神道那実) 127
アレルギー疾患／急性・慢性腎炎／てんかん／小児がん／小児糖尿病／生活習慣病
6. 予防接種 …………… (神道那実) 148
予防接種の意義とその必要性／予防接種の種類と方法／予防接種を受けるときの注意事項／予防接種スケジュール

第6章 障害をもつ小児と家族へのかかわり方

1. 障害の概念 …………… (大西文子) 160
障害とは？／障害の種類と疾病分類
2. 障害を伴う病気・症状とそのケア …………… (大西文子, 輿水めぐみ) 163
脳性麻痺／ダウン症候群／摂食・嚥下障害／聴覚障害／視覚障害
3. 発達障害 …………… (神道那実) 173
精神遅滞／広汎性発達障害
4. 特殊なケアの介助方法 …………… (鈴木弘美) 180
車椅子操作／吸引

第7章 児童虐待

1. 児童虐待の定義 …………… (大西文子) 188
児童虐待の現状／児童虐待の定義／虐待の世代間連鎖
2. 児童虐待への対処 …………… (山田裕子) 191
集団生活における発見／その後の対応

第8章 地域との連携・協働

1. 子どもにかかわる地域ネットワーク・システム …………… (山田裕子) 196
2. 地域における保育者の役割と地域との連携・協働 …… (大西文子, 山田裕子) 198
子育ての概念・原則

各項目の終わりには「自己学習問題」を用意しました。()内に入る数字や言葉を考えたり、それぞれの設問について考えることで、おのおのの学習の助けとしてください。
また、付録として重要語句を隠す半透明下敷きと学習シールがついています。それぞれの工夫で学習に役立ててください。

1

成長発達の一般的原則



Check
シール

学習のポイント

1. 成長発達の一般的原則を理解する。

- 子どもの成長発達は、いくつかの原則に基づいて進行していく。
- 成長発達が早い子どもと遅い子どもがいるが、一般的原則は同じである。

方向性・順序性がある(図 2-1-1)

- 頭部から足の方へ進む。
- 身体の中心部から末梢の方へ進む。

急速に発達する時期と緩慢な時期がある

- 各器官によって成熟する時期や速さが異なる。スキヤモンは、全身の器官をリンパ系型、中枢神経系型(脳、脊髄)、一般型(筋肉、骨格、呼吸器、消化器、循環器、血液量など)、生殖器型に分類し、各臓器の発育を図式化している(図 2-1-2)。
- ある器官や機能が成熟する過程には、決定的に重要な時期(臨界期)があり、臨界期に適切な刺激が加われば成長発達が促される。反対に、臨界期に必要な刺激がなければ成長発達が阻害されてしまう。
- 身長や体重は病気や障害によって一時的に成長が妨げられても、身体状況が改善すると病気になる前よりも速い速度で成長が追いつく(キャッチアップ現象)。

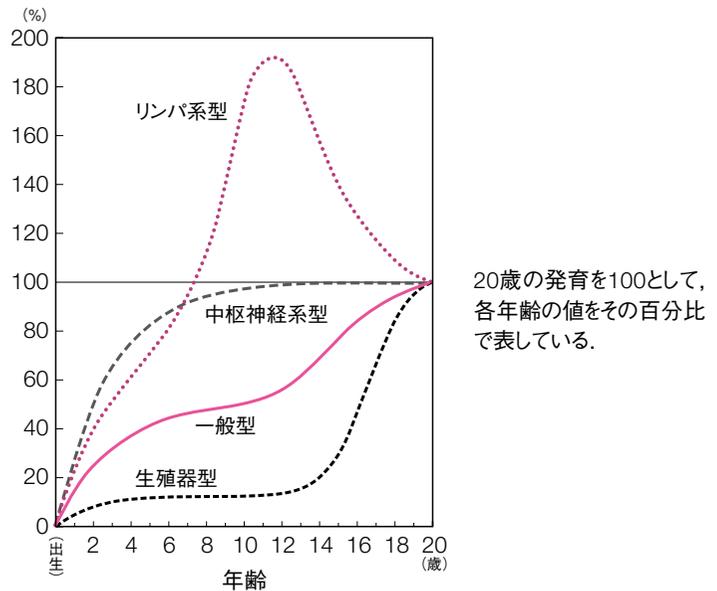
個人差がある

- 遺伝的要因や環境的要因(家庭環境、社会的環境、健康状態など)の影響を受ける。
- 諸器官の成熟に応じた経験を促すことで、学習および発達は促進される。

図 2-1-1 ▶ 発達の方角



図 2-1-2 ▶ スキャモンの臓器別発育曲線



(Scammon RE. The measurement of the body in children. In : Harris JA, et al. editors. The Measurement of Man. University of Minnesota Press : 1930.)

自己学習 ▶ 成長発達の一般的原則

- 成長発達には、方向性・順序性があり、()から()の方向へ、身体()から()の方向へ進む。
- 成長発達には、急速に発達する時期と緩慢な時期とがあり、()期に適切な刺激が加わることで促進される。
- 成長発達は、遺伝的要因や環境的要因に影響を受けるため、()差がある。

解答

- [1] 頭部, 足, 中心部, 末梢
- [2] 臨界
- [3] 個人

2

形態的発達



Check
シール

学習のポイント

1. 各年齢における形態的発達の特徴を理解する。

体重

- 出生時の平均体重(2010年)は、男児 2,980 g、女児 2,910 g である(表 2-2-1)。
- 生後 3~4 か月には出生時体重の約 2 倍、1 歳時には約 3 倍に増加する。
- 体重の増加量は、乳児期前半が最も多く、その後徐々に減っていく(表 2-2-2)。

身長

- 出生時の平均身長(2010年)は、男児 48.7 cm、女児 48.3 cm である(表 2-2-1)。
- 1 歳時には出生時身長の約 1.5 倍、4 歳時には約 2 倍になる。
- 乳児期前半に急激な増加がみられ、幼児期に入ると徐々に増加がゆるやかとなる。
- 学童期後半になると、女児の身長が急激に増加し、その後男児の身長が急激に増加する。

胸部

- 出生時の平均胸囲(2010年)は、男児 31.6 cm、女児 31.5 cm である(表 2-2-1)。
- 1 歳時には、約 44~46 cm になる。
- 出生時の胸囲は頭囲より小さいが、1 歳前後から胸囲のほうが大きくなる。
- 乳児は腹式呼吸を行っているが、胸郭と筋肉の発達に伴い胸式呼吸へと変化していく。3~7 歳ごろまでは胸腹式呼吸、それ以降は胸式呼吸となる。

頭部

- 出生時の平均頭囲(2010年)は、男児 33.5 cm、女児 33.1 cm である(表 2-2-1)。
- 生後 6 か月で約 42~43 cm、1 歳時には約 44~46 cm と、生後 6 か月までに急速に発達する。
- 頭囲の成長は、脳の発達と重要な関連があり、出生時約 400 g の脳は、生後 2 か月で約 2 倍、1 歳時には約 3 倍になる。

表 2-2-1 ▶ 出生時の体重・身長・胸囲・頭囲の平均値 (2010 年)

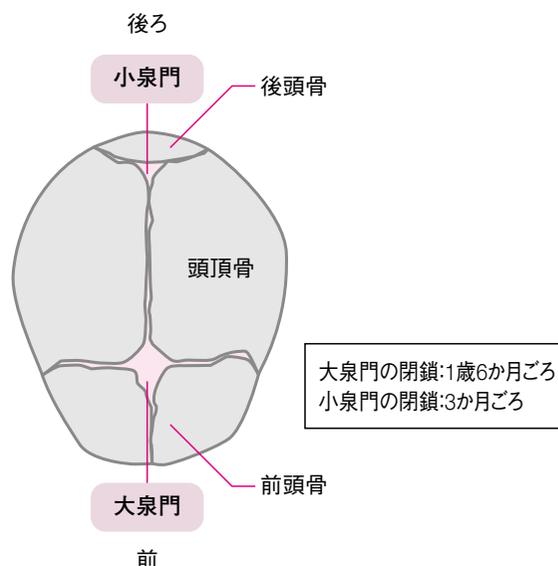
	男	女
体重(g)	2,980	2,910
身長(cm)	48.7	48.3
胸囲(cm)	31.6	31.5
頭囲(cm)	33.5	33.1

(厚生労働省雇用均等・児童家庭局、平成 22 年乳幼児身体発育調査報告書：2011.)

表 2-2-2 ▶ 小児の平均体重増加量

年 齢	平均体重増加量
1~3 か月	25~30 g / 日
3~6 か月	20~25 g / 日
6~9 か月	15~20 g / 日
9~12 か月	7~10 g / 日
1~2 歳	1.5~3.0 kg / 年
2~3 歳	1.0~1.5 kg / 年
3~5 歳	0.7~1.5 kg / 年

図 2-2-1 ▶ 頭部：大泉門と小泉門

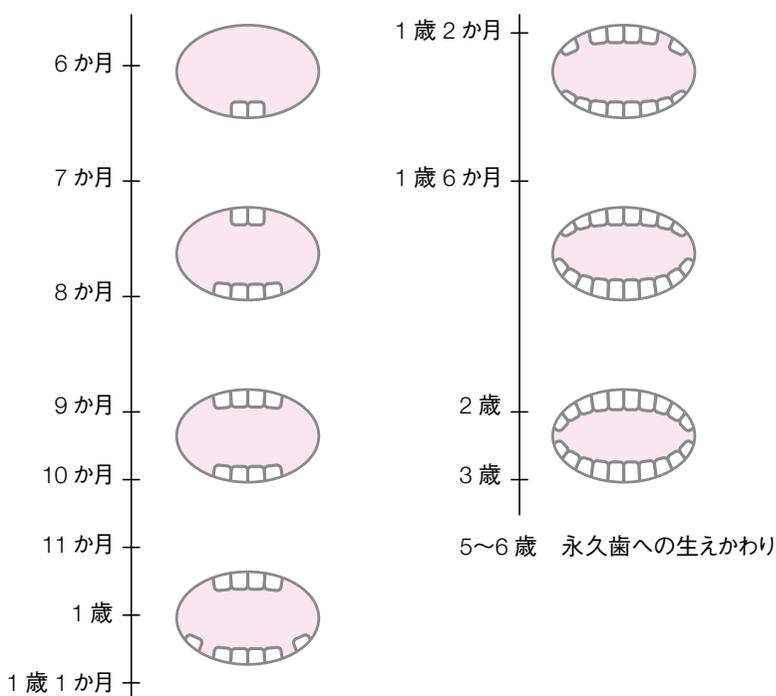


- 1歳6か月ごろまでの乳幼児は、骨縫合に間隙がみられる。前頭骨と頭頂骨に囲まれた部分を**大泉門**、頭頂骨と後頭骨に囲まれた部分を**小泉門**という(図 2-2-1)。大泉門は1歳6か月ごろ、小泉門は生後3か月ごろに閉鎖する。

生歯

- 乳歯は、生後6~8か月ごろに生え始め、2~3歳で上下10本ずつ計20本が生えそろう(図 2-2-2)。
- 乳歯は5~6歳ごろから抜け始め、同時に永久歯が生え始める。
- 永久歯は、第3臼歯を除いて12~13歳ごろまでに計28本生えそろう。第3臼歯は17~21歳に生えるが、上下4本すべてが生えないこともある。第3臼歯が4本生えそろうと、永久歯は計32本となる。
- 乳歯の萌出時期は、妊娠中の母親の栄養状態の影響を受ける。また、永久歯の萌出時期は、乳幼児期の栄養状態の影響を受ける。したがって、乳歯・永久歯ともに萌出時期は個人差が大きい。

図 2-2-2 ▶ 歯の生え方



骨

- 骨は、身体の発育に伴い、長さ・太さ・密度を増して成熟していく。
- 低身長など成長の遅れが認められた場合には、左手の X 線像から手根骨の骨化をみて骨年齢を判定する。

身体バランス

- 年齢が小さいほど、身長に対して頭が大きい。
- 身長と頭のバランスは、新生児では 4:1、2 歳ごろでは 5:1、6 歳ごろでは 6:1、12 歳ごろでは 7:1 となる (図 2-2-3)。

自己学習 ▶ 形態的発達

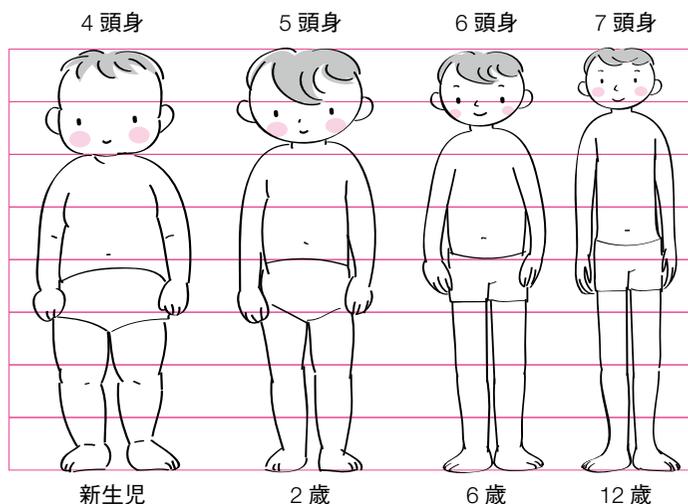
体重

1. 体重は、生後 3~4 か月に出生時の約()倍、1 歳時には約()倍になる。

身長

2. 身長は、1 歳になると出生時の約()倍、4 歳になると約()倍になる。

図 2-2-3 ▶ 身体バランス



頭部

3. 頭囲の成長は脳の発達と関連があり，出生時約()gの脳は，生後2か月で約()倍，1歳時には約()倍になる．子どもの骨縫合には間隙があり，前頭骨と頭頂骨に囲まれた部分を()といい，()歳()か月ごろに閉鎖する．また，頭頂骨と後頭骨に囲まれた部分を()という．

生歯

4. 乳歯は，生後()か月ごろに生え始め，2～3歳で上下()本ずつ生えそろう．永久歯に生え変わるのは()歳ごろである．

身体バランス

5. 身長と頭のバランスは，新生児では()：1，()歳ごろでは5：1，()歳ごろでは6：1，()歳ごろでは7：1となる．

解答

- [1] 2, 3
 [2] 1.5, 2
 [3] 400, 2, 3, 大泉門, 1, 6, 小泉門
 [4] 6～8, 10, 5～6
 [5] 4, 2, 6, 12

子どもの保健 演習

2012年12月25日 初版第1刷発行 © [検印省略]

編集／執筆 — おおにし ふみ こ
大西 文子

発行者 — 平田 直

発行所 — 株式会社 中山書店
〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14
TEL 03-3813-1100(代表) 振替 00130-5-196565
<http://www.nakayamashoten.co.jp/>

本文デザイン — ビーコム

装丁 — ビーコム

イラスト — 市村玲子

印刷・製本 — 図書印刷株式会社

Published by Nakayama Shoten Co., Ltd.

Printed in Japan

ISBN 978-4-521-73677-8

落丁・乱丁の場合はお取り替え致します

本書の複製権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社中山書店が保有します。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

本書をスキャン・デジタルデータ化するなどの複製を無許諾で行う行為は、著作権法上での限られた例外(「私的使用のための複製」など)を除き著作権法違反となります。なお、大学・病院・企業などにおいて、内部的に業務上使用する目的で上記の行為を行うことは、私的使用には該当せず違法です。また私的使用のためであっても、代行業者等の第三者に依頼して使用する本人以外の者が上記の行為を行うことは違法です。
